論点整理表（山川水系）

平成27年度第3回
静岡県河川審議会
山・火振ー資料ー4

流域及び河川の現状

流域の概要

- 山川は、静岡県伊豆市西部に位置する流域面積約23.0km2、幹川流路延長約3.6kmの二級河川である。
- 山川は、その源を棚場山西麓に発して西に流下し、途中、支川の清越川、横瀬川、水口川と合流して、伊豆市土肥町の市街地を貫流して駿河湾に注いでいる。
- 流域の地形は、上流から中流にかけて山地と火山地に覆われている。また、下流は沖積低地が河川沿いにわずかに形成されている。
- 流域の地質は、東側に棚場火山由来の鮮新世火山岩類が分布し、流域の中央には海底火山の噴火によってできた湯が島層群が分布している。また、西側の僅かな低地には、砂礫層や泥砂礫互層といった未固結堆積物が分布している。
- 山川の河床勾配は、上流部は1/30程度、中流部は1/50程度、下流部は1/100程度と比較的急峻となっている。
- 上・中流部は概ね掘込河道、下流部は築堤河道となっている。
- 流域の気候は、静岡県の大部分の地域と同様に温暖で、夏季は高温多湿、冬季は温暖少雨の表日本式気候（太平洋型気候区）に属している。年平均気温は約16.2℃（松崎観測所）と年間を通じて温暖な気候であり、平均年間降雨量については約1,750mm（土肥観測所）で全国平均と同程度である。
- 流域の土地利用は、山林が約92%を占め、水田・畑・原野が約5%、宅地が約3%となっている。宅地の多くは河川沿いや下流の低地に形成されている。また、下流域の沿川には西伊豆最古の土肥温泉が立地しており、民宿やホテル等が建ち並ぶ。
- 流域が位置する伊豆市土肥地区の人口は世帯数とともに年々減少傾向であり、老年人口の割合は増加傾向。
- 伊豆市土肥町の就業人口の75%が第３次産業に従事しており、第３次従事者のうち「飲食業・宿泊業」が最も盛んに行なわれている。
- 土肥温泉や土肥金山、土肥海水浴場等、歴史や自然を活かした観光資源が多く立地している。
- 山川の河川沿いに土肥地区と天城湯ヶ島地区を結ぶ主要幹線道路の国道136号が通っている。伊豆縦貫自動車道へのアクセス道の整備や道路改良工事が行われており、今後、各地からの土肥へのアクセス向上が期待される。

治水事業の沿革と現状

- 山川流域における過去の治水事業は、主に災害復旧事業によるものである。
- 昭和13年（1938年）の６月29日の大洪水では、一面が大石の河原となったと云われ、洪水の勢いとともに多量の土砂が流出した。
- 昭和36年（1961年）の６月23～28日にかけての集中豪雨では、土肥地区で、死者・行方不明５人、全壊家屋24戸、流出家屋15戸、床上浸水482戸、床下浸水595戸の被害が発生し、がけ崩れや山崩れが74ヶ所で発生した。
- 災害復旧事業による河川工事や、上流域の砂防事業や治山事業による整備により、昭和36年以降、大きな災害は発生していない。
- 山川では、河床掘削による維持工事を実施しているが、依然として、土砂堆積による流下能力が不足が河口付近で発生している。
- 1854年の安政東海地震では、大きな津波被害が発生し、土肥地区では、浸水56件、流出２件、死者13人の被害が発生した。当時の被害を後世に伝えるため、津波の到達した場所に波尻観音が建てられている。
- 河口右岸において、第3次地震被害想定による嵩上げ工事を実施済み。

河川の水利用

- 山川水系に係る許可水利権はなく、慣行水利権は８箇所あり、かんがいに使用されている。
- かつては漁業権が設定されていたが、今は設定されていない。

河川環境及び住民との関わり

- 水質について環境基準の類型指定はされていない。
- 市街地の下水道整備は完了している。
- 山川の河口、下流、中流、上流で、13種の魚類と9種の底生動物が確認された。重要種はニホンウナギ、カマキリ等が確認された。外来種は確認されていない。
- 山川の土肥大橋から金山橋にかけて、親水空間の創出を目的とした河畔道やリバーサイド遊歩道が整備されている。
- 流域住民の多くは川遊びやイベント等で河川を利用したことがあり、河川愛護活動等にも多くの住民が参加している。
- 多くの住民が、治水安全度の向上とともに、利用しやすい河川を望んでいる。

水系の特徴（着眼点）

治水

- 火山由来の地質が多く分布しており、土砂生産の活発な流域である。
- 勾配が緩くなる下流の河床が堆積傾向にある。
- 過去の大きな洪水では、多量の土砂により壊滅的な被害を受けた。近年は河道整備や砂防事業の整備等により大きな被害を受けていない。
- 安政東海地震では大きな津波被害を受けている。
- 河口付近には旅館や海水浴場等あり、津波対策においては、施設整備の際景観との両立が重要となる。

利水

- 灌漑用水に使われている。
- 漁業権が過去にはあった。

環境

- 下流の市街地について、下水道が整備済み。
- ニホンウナギやカマキリ（アユカケ）といった重要種が確認されている。
- 一部、親水施設の整備がされている。
- 多くの住民が利用しやすい河川を望んでいる。